

合田外科新聞



<https://www.godageka.jp>

令和5年10月号 (第106号)

電話：0797-71-2132 / ファックス：0797-74-1430

最近の話題：薬不足



数年前より薬の供給が不安定になり出していましたが、今年には更に状況が悪化しており、**薬を卸会社に発注してもなかなか手に入らない**場合がしばしばあります。元はと言えば、令和2年末に福井県のジェネリック（＝後発）医薬品メーカーで、水虫などの真菌症の治療薬に睡眠薬の成分が混入し、死亡例を含め全国で240名以上の健康被害が発生した不祥事がきっかけです。このメーカーでは国が承認していない工程による医薬品の製造を行い、不正を長年に渡り組織的に隠蔽し続けていた事など悪質な実態が明らかになりました。これ以後、医薬品メーカーに対して全国の都道府県による抜き打ちの立ち入り調査が行われ、業界大手を含む複数のメーカーで製造工程の問題が見つかり、相次いで業務停止命令が出されるなどして、幅広い医薬品の出荷が次々に止まりました。ある会社の出荷が止まると、同じ成分の薬を作っている別の会社に注文が集中し、自社の供給量を上回ってしまったために出荷を制限せざるを得なくなり、さらに別の会社へと連鎖的に出荷調整が広がっていきます。このような状態が数年に渡り続いてきた訳ですが、今年は5月末～6月初めの全国調査で、通常通りの出荷ができない薬品が全体の2割にものぼりました。およそ**5分の1の品目が入手できない・しづらい異常状態**です。身近のものでは、PL配合顆粒などの風邪薬や咳止め、また葛根湯や芍薬甘草湯などの漢方薬、吐気止めや腹痛の痛み止めなども不足しています。必ずしもメーカーの不祥事のせいばかりではなく、需要の増加や原材料の調達トラブルなど様々な原因が複合的に関与していますが、医療費抑制の為に特許が切れた安価な後発品（ジェネリック医薬品）の使用を強力に推し進めてきた国の責任は免れません。これらのメーカーは大手の製薬会社と異なり規模が小さく、安定供給に難がある事は容易に推測ができたからです。**今回の薬不足は国の政策の失敗**です。マイナンバーカードと同じく拙速な政策は必ず後になって綻びが生じ、私達がつけを払わせられる訳です。

インフルエンザワクチンのお知らせ

10月2日（月）からインフルエンザワクチンの接種を開始致します。当院では5歳以上の方を対象としています。65歳以上、あるいは60歳以上で特定の疾患のある宝塚市民の方は1500円で接種可能です。また近隣市の方も市役所で証明書を発行してもらって来て頂ければ1500円で接種が可能です。なお一般の方の任意接種の料金は下表の通りとなっています。在庫次第となりますが予約は不要です。



	接種回数	1回目料金	2回目料金
65歳以上	1回	1500円	
13歳以上65歳未満	1回	3500円	
5歳以上13歳未満	2回	3500円	3000円

7回目新型コロナワクチンのお知らせ

宝塚市では9月25日（月）より7回目の新型コロナワクチン接種（令和5年秋開始接種）が始まりました。対象者は初回接種を終了した全ての方ですが、従来通り、まず65歳以上の高齢者の方から始まります。接種日時が記載された接種券が届きますので、ご確認ください。当院では午前の枠、午後の枠の中ならば多少時間がずれても対応できます。例えば午前10時の方が11時でも構いませんし、午後6時の方が4時でも大丈夫です。但し、午前の枠を午後の枠に変えたいという場合、あるいは日にちを変えたいという場合にはワクチンの準備の都合上、対応できない事がありますので事前にご確認ください。接種ワクチンはファイザー製のXBB対応1価ワクチンとなります。



【編集後記】

今年の夏は暑かったですね。この120年間で最も暑かったそうですから、全人類が経験した事のない異常気象だった訳です。何とか地球温暖化を食い止めないと人類滅亡にもなりかねませんね。一人一人で行える事を考えましょう。

院長

合田 潔

合田外科新聞



<https://www.godageka.jp>

令和6年1月号 (第107号)

電話：0797-71-2132 / ファックス：0797-74-1430

最近の話題：認知症新薬

最近、アルツハイマー型認知症に対する新薬（レケンビ）がエーザイ株式会社から販売開始となりました。新聞やテレビで盛んに報じられていたのでご存知の方も多いかと思います。認知症は国民的な関心事ですが、特にご家族に認知症の方がいらっしゃる場合には他人事ではありません。



日本には認知症の高齢者が600万人以上いますが、認知症にも様々な種類があり、アルツハイマー型認知症・血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症の4つが代表的です。この内、最も割合が多く、全体の70%近くを占めるのがアルツハイマー型認知症です。アルツハイマー型認知症では記憶障害が目立ち、例えば何を食べたかを忘れるのではなく、食事をした事自体を覚えていないなど「行動そのものを覚えていない」様になります。進行すると徘徊・失禁・性格の変化などが現れ、日常生活に全面的に介護が必要となってきます。アルツハイマー型認知症では脳にアミロイドβという有害な蛋白質の塊（アミロイド班）が蓄積していることが判っており、これが認知症の一因だと考えられています。今回承認されたレケンビはアミロイドβに結合する抗体で、アミロイドβを取り除く事で、アルツハイマー型認知症の進行を抑え、症状の悪化を防ごうという薬剤です。

確かに画期的であり非常に期待の大きかった薬剤ですが、進行したアルツハイマー型認知症では残念ながら効果はありません。ある程度の効果が見込めるのは、物忘れが多いがその自覚は常にある、行動は覚えているが詳しい内容は忘れていたといった軽度の認知症までで、しかも良くなる訳ではなく進行を若干抑える程度ですので、残念ながら効いてい

る実感は感じられない様です。年間の薬剤費が300万円と高額で、限られた施設でしか投与できず、実施前には特殊な検査が必要など、誰でも簡単に使える薬剤ではありません。過剰な期待は禁物です。



寒い時期のお風呂は要注意！

急な温度変化によって血圧が急変動し、体に異常が引き起こされる事をヒートショックと言います。典型は冬場の入浴です。暖かい居室から冷えた脱衣所に行くと体が熱を逃がさないために血管が収縮して血圧が上がり、次いで熱いお湯につかると今度は血管が拡張して血圧が下がってしまいます。このように**血圧が急に変動する時には脳出血・脳梗塞・心筋梗塞などの血管の大きな病気が起こりうるのです**。他にも冬場の真夜中のトイレも要注意です。**ヒートショックを防ぐためには脱衣所やトイレに暖房器具を置いたり、浴室を予め暖めておくなどの工夫をして下さい。**



インフルエンザに関して

ここ数年のコロナ禍の間はインフルエンザの流行は殆ど見られませんでした。手洗いやマスクなど新型コロナに対する感染予防対策がインフルエンザにも功を奏した格好です。しかし今シーズン（2023年—2024年）は夏の終わりからインフルエンザに罹る方が増え出し、年末まで一貫して増加していました。5月に新型コロナの位置づけがインフルエンザ並みの5類感染症に引き下げられ、今までの感染予防策が手薄になったのに加え、インフルエンザに罹った事が無い子供が増えていたからでしょう。宝塚市内でも小学生・中学生を中心に大流行し、多くの学校で学級閉鎖や学校閉鎖になってしまいました。**年明けからは更に流行の拡大が懸念されます**。高齢者や持病のある方の多くは既にワクチン接種を済ませていると思われますが、未だの方は**1月31日まで**が接種期間となっていますので是非受けましょう。年末の時点で当院にも若干の在庫がございます。



【編集後記】

ようやくコロナ禍が明け、久しぶりに平常な年末年始となりました。とは言え、インフレや戦争など、世界は依然として混沌としています。新年が平穏な一年である様、切に願います。皆様、今年もどうか宜しく願い申し上げます。

院長

合田 潔

合田外科新聞



<https://www.godageka.jp>

令和6年4月号（第108号）

電話：0797-71-2132／ファックス：0797-74-1430

最近の話題：新型コロナ医療提供体制変更

新型コロナウイルス感染症は、ご承知の様に令和5年5月8日から感染法上の位置づけが2類（ジフテリア・結核等）相当から5類（インフルエンザ等）に変更され、従来の厳しい規制は撤廃されました。以後、令和6年3月末までは医療提供体制の移行期間と定められていましたが、4月以降は平常の医療となります。具体的には①外来医療体制においては発熱等外来対応医療機関の指定・公表が終了となります。従来、新型コロナの診療・検査を行う医療機関として、必要な検査体制が確保され、感染防止策が講じられている医療機関が兵庫県より指定されていましたが、**4月以降は原則、全ての医療機関で発熱されている方に対応する事となります。**②入院医療体制においては確保病床が廃止されます。従来、新型コロナ患者の入院増大に備え、病床が予め確保されていましたが、4月以降は**通常の入院受け入れ体制となります。**また入院先の決定に関しても保健所の関与は無くなり、医療機関同士で入院先の調整・決定を行う通常 of 体制となります。③患者等に対する公費支援においては、**新型コロナ治療薬の薬剤費及び入院医療費の自己負担に係る支援が終了となります。**



十分な効果が期待できないため、当院では新型コロナ治療薬は原則として使用しておりませんが、非常に高額な薬剤が多く、自己負担金は大幅に上がる事になります。④新型コロナワクチンにおいては予防接種法に基づく**無料の特例臨時接種が終了します。**令和6年秋冬にインフルエンザ同様に定期接種として接種予定です。原則として65歳以上の高齢者が対象で公費による補助もありますが、自己負担金は7000円程度と見込まれています。

3月31日まで

治療薬の薬剤費のうち、上限額を超える部分を公費で負担

【上限額】

3割負担の方	2割負担の方	1割負担の方
9,000円	6,000円	3,000円

※各治療薬共通

4月1日から

- 通常の医療体制に移行し、公費負担は終了します
- 医療費の自己負担割合に応じた、通常の窓口負担になります

〔医療保険において、毎月の窓口負担(治療薬の費用を含む)について高額療養費制度が設けられており、所得に応じた限度額以上の自己負担は生じません〕

健診・検診開始



4月より令和6年度の健診・検診が始まります。当院では宝塚市国民健康保険特定健康診査（メタボ健診）と高齢者の方の宝塚市後期高齢者健康診査を行います。対象の方には宝塚市より案内状が届きますのでお持ち下さい。無料で受けられます。また肺がん検診・大腸がん検診・前立腺がん検診・肝炎ウイルス検診・胃がんリスク検診も行いますので合わせて受診下さい。国民健康保険加入の方と70歳以上の方では肺がん検診・大腸がん検診は無料です。社会保険加入の方でも一定の年齢以上の場合には小額の負担でがん検診を受けられます。

検診種類	期間	対象	内容	料金
宝塚市国民健康保険特定健康診査	4/ 1(2024)～2/28(2025)	40歳～74歳の宝塚市国民健康保険加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料
宝塚市後期高齢者健康診査	4/ 1(2024)～2/28(2025)	75歳以上の宝塚市民で兵庫県後期高齢者医療加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料
肺がん検診	4/ 1～ 6/29(2024) 9/ 2～11/30(2024)	40歳以上の宝塚市民	胸部レントゲン撮影	500円
大腸がん検診	4/ 1(2024)～2/28(2025)	40歳以上の宝塚市民	検便（便潜血検査）	500円
前立腺がん検診	4/ 1(2024)～2/28(2025)	50歳以上の宝塚市民（男性）	血液検査（腫瘍マーカー）	1300円
肝炎ウイルス検診	4/ 1(2024)～2/28(2025)	40歳以上の宝塚市民で過去に肝炎検診未受診の方	血液検査（肝炎ウイルス）	1200円
胃がんリスク検診	4/ 1(2024)～2/28(2025)	40歳以上の宝塚市民で受診券が送付された方	血液検査（ピロリ菌抗体等）	2000円

ジェネリック医薬品

当新聞の第106号（令和5年10月号）でお伝えしたジェネリック医薬品を中心とした薬不足は若干改善してきており、咳止めや風邪薬もある程度は供給される様になってきました。令和6年10月以降は先発医薬品使用に際して患者様の追加自己負担金が生じますので、当院でも可能な限りジェネリック医薬品に変更していく予定です。ご不便・ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますがご容赦下さい。



【編集後記】

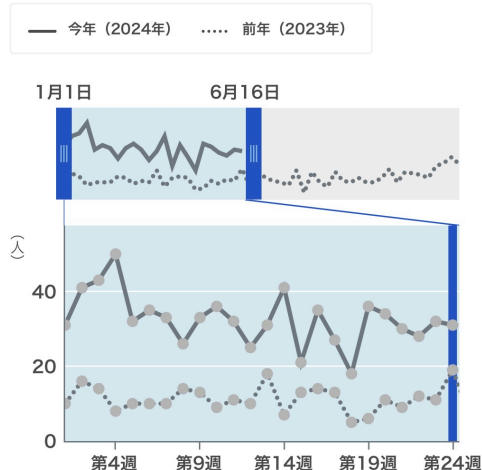
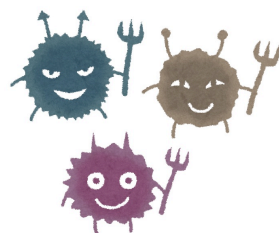
いよいよ4月から新型コロナは完全にインフルエンザ並みの扱いになりますが、感染性が変わる訳ではありませんので、当面の間は院内ではマスク着用をお願い致します。それにしてもダイヤモンドプリンセス号の感染から4年以上経ったとは驚きです。

院長 合田 潔



最近の話題：人食いバクテリア

最近ニュースなどで、今年は「人食いバクテリア」が例年以上に広がっていると報道され、不安に思われている方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。この原因菌は「**A群溶血性連鎖球菌**」と呼ばれ、手足の壊死や多臓器不全などを生じ、症状が急激に悪化し死亡することもある「**劇症型溶血性連鎖球菌感染症：STSS**」という病気を引き起こします。但しこの菌自体は特に珍しい菌ではなく、「**A群溶血性連鎖球菌咽頭炎**」という小児の喉風邪の原因菌として普通に見られるものです。この咽頭炎では咳やくしゃみなどの飛沫に含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」や細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路となり、通常は2～5日の潜伏期間の後、38度以上の発熱・咽頭発赤・莓状の舌などが現れます。しばしば嘔吐を伴いますが、熱は3日から5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。一方、「**劇症型溶血性連鎖球菌感染症**」では傷口などから菌が侵入し、四肢の疼痛・腫脹・発熱などのインフルエンザ様の初期症状が現れてから非常に急速に進行し、全身状態の悪化によって致死率が30%に達すると報告されています。診断が確定した時点で抗生剤投与を中心に強力な治療を行えば救命の可能性は高まりますが、早期の診断が困難な事も稀ではありません。



左図は今年初めからの劇症型溶血性連鎖球菌感染症の全国での発生件数ですが、確かに昨年に比べ倍増していますが、それでも年間で1000～2000人のレベルです。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は年間に数十万人以上が発症しますので、増えているとはいえ、非常に珍しい病気ですので、心配し過ぎる必要はありません。まずは手洗いをしっかりして予防に努めましょう。

熱中症にご注意を！

気象庁によると今年の夏の気温は全国的に平年より高く、暑い夏になるようです。この時期、気を付けなければならないのが熱中症です。熱中症は気温が高い時や激しい運動で体にたくさんの熱が発生した時に起こり易いのですが、時には家の中でじっとしていても起こることがあり、油断は大敵です。熱中症を防ぐために、しっかりと水分を摂り、クーラーを積極的に使い、暑さを避ける工夫をして下さい。



带状疱疹ワクチン助成開始

コロナ禍を経て、带状疱疹（＝ヘルペス）に罹られる方が増加しているようです。子供の頃に水疱瘡に罹られた方は大勢いらっしゃるでしょう。水疱瘡の原因は「水痘・带状疱疹ウイルス」と呼ばれるもので、このウイルスは水疱瘡が治った後も変わらず、体の中（神経節）に潜んでいます。普段は何ら症状を出しませんが、大きな病気や手術、また加齢によって免疫能力が低下すると、ウイルスが目覚まして暴れ出し、带状疱疹を発症します。带状疱疹ではウイルスが神経を傷つけながら皮膚に向かうため、まず神経痛様の痛みが生じ、数日してから皮膚に発疹が出てきます。典型的には小さな紅い水疱が帯状に幅広く出現し、強い痛みを伴います。带状疱疹だと診断がつけば抗ウイルス薬を投与して一週間程で治まってきますが、中には治ってからも何年も後遺症として痛みが続く場合があります。厄介な病気です。带状疱疹に対しては発症予防のためのワクチンが使われていますが、高価でありあまり普及はしていませんでした。しかしこの7月より宝塚市でも公費による一部助成が始まりますので、免疫能力が低下している方は是非前向きに検討して下さい。当院でも接種しています。



【編集後記】

梅雨前から既に真夏日が続いていましたが、今夏も例年以上に暑くなりそうです。地球温暖化は確実に進行しているようです。大きな災害が起こらなければいいのですが。皆様、ご自身の健康には十分にお気を付け下さい。

院長 合田 潔

合田外科新聞



<https://www.godageka.jp>

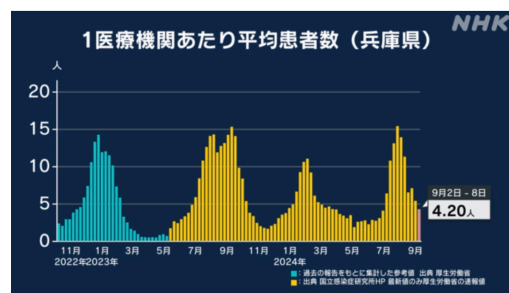
令和6年10月号 (第110号)

電話：0797-71-2132 / ファックス：0797-74-1430

最近の話題：新型コロナ最新状況

今年の夏は新型コロナが大流行しました。当院でもお盆前後には風邪症状の方の8割以上が検査で新型コロナと判明した事もありました。ワクチンを7回接種した方でも罹られており、感染力の高さが伺えます。幸い当院で診察した方は全て軽症で、比較的症状が長引く方の中にはいらっしゃいましたが、入院が必要な程ではありませんでした。昨年5月から新型コロナはインフルエンザ相当の5類感染症に移行し、感染者の全数把握は中止されましたが、全国5000の医療機関からの報告を元に

定点把握データが厚労省より公表されています。右図はNHKのホームページから拝借した兵庫県のグラフですが、補正を行うとこの夏の流行は従来の感染波と同じ位の規模だった様で、まだまだ新型コロナは消え去った訳ではありません。現在日本で主流のコロナ株



は「K P. 3」株で、これは昨年末から年明けに大流行したオミクロン株の亜系統「J N. 1」株から派生したものです。この株の特徴は、従来の株に比べ感染力が高く、ワクチンや抗体による免疫を回避する能力も高い事です。すなわち昨年の夏に新型コロナに感染した方がまた今年も感染したり、今までワクチンを何回も接種した方でも感染する事が有り得ます。幸い現時点では従来の株に比べ重症化し易い訳では無い様ですが、今までワクチン接種を受けていない方では肺炎を起こして入院が必要になる事もある様です。この10月からのワクチンは、現在流行中の株に的を絞っていますので、比較的有効であると思われます。ワクチン以外にも、経口の抗ウイルス薬が比較的容易に使える様になってきました。3割負担の方では薬剤費だけで15000円以上と高価ではありますが、重症化リスクのある方（高齢者／基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患・慢性腎臓病・糖尿病・高血圧・心血管疾患・肥満・喫煙）のある方等）は重症化予防の為、使用を考慮した方がいいかもしれません。

診療時間変更のお知らせ

諸般の事情により、10月より木曜日の午後診（午後4時～7時）を休診に致します。ご来院の患者様には大変にご迷惑・ご不便をおかけし誠に申し訳ございませんが、何卒宜しくご了承の程、お願い申し上げます。



インフルエンザ予防接種のお知らせ

10月1日よりインフルエンザの予防接種を開始致します。当院では5歳以上の方を対象としています。65歳以上、あるいは60歳以上で特定の疾患のある宝塚市民の方は1500円で接種可能です。また今シーズンから阪神6市1町（尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・川西市・三田市・猪名川町）の方は昨年まで必要であった市役所よりの依頼書が不要になりましたので、より簡便に受けて頂けるようになりました。一般の方は市内外を問わず接種料金は3500円です。

新型コロナ予防接種のお知らせ

10月1日より新型コロナの予防接種を開始致します。当院では65歳以上の高齢者の方のみ行います。従来接種と異なり、今回より自己負担金として3260円がかかりますので、ご注意下さい。原則として予約は不要ですが、ワクチンの在庫状況によっては接種できない場合がありますので、お含み下さい。

先発医薬品保険適用外

10月より後発医薬品がある一部の薬剤が健康保険の適用から外れ、大幅に自己負担金が増加します。当院では急遽、当てはまる薬剤を成分が同じジェネリック薬品に変更していますので、ご了承願います。



【編集後記】

今年の夏も暑かったですね。昨年はこの120年間で最も暑かったそうですか、今年は2番目との事。電気代はかかりますが、クーラーつけっぱなしも仕方がない。なんせ命あっての物種ですから。夏の疲れが出ない様、ご自愛下さい。

院長

合田 潔